

【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】
2018年度 最優秀校
岐阜市立陽南中学校

地域の研究実践校としての使命感を持ち、研究テーマ「自立した学びを実現する生徒」に全校体制で取り組まれています。理科を柱とする「科学が好きな子ども」を育成する取り組みが、学校全体の研究テーマの中に位置づいて、他教科の学習指導と一体となって授業改善が図られていることは、全校の組織的な実践として評価します。

「科学が好きな子ども」の育成は、理科の授業を柱とした取り組みではありますが、理科以外の教科の学習活動で培われる資質能力とも大きくかかわります。そうした考えに基づいて、理科の学習指導では、「科学が好きな子ども」の感性・創造性・主体性を育成する観点から、単元構成や授業の場面での導入・展開・終末の各段階の手立てを具体化して、生徒一人一人の確かな学びを実現する学習指導が展開されています。

導入段階では、生徒が単元の学習について見通しをもって探究するための事象との出会いや教材の工夫が行われ、創意に満ちた単元構成が図られています。

授業の展開段階では、「考え方のスキル」に基づく「一枚ノート」の活用が、生徒一人一人に実感をもった確かな学びが実現されていました。具体的な授業の場面では、「一枚ノート」の記録や活動の状況を教師がきめ細かく見極め、適時に評価や助言が行われ、生徒同士が考えを交流する場も効果的に構成されて、学級全体の主体的な探究が実現しています。また、キャリア教育にかかわる総合的な学習の時間「教師版インテンシブ」での集中型講義の実践では、科学や科学技術への生徒の関心や理解を深める内容が選択項目に位置づけられているなど、特色ある取り組みとして展開されています。

こうした日々の実践を見直すことによる貴校の地道な取り組みの成果が、アンケートの分析結果である「授業での学びを日常生活や自分とつなげて考えることができる生徒」の具体的な姿につながっているものと考えられます。